

平成 30 年度 東京都立戸山高等学校

推薦に基づく選抜

小論文

注 意

- 1 問題は と で、2 ページにわたって印刷してあります。
- 2 と の両方とも、それぞれの解答用紙に答えなさい。
- 3 検査時間は 50 分です。
- 4 声を出して読んではいけません。
- 5 答えはすべて解答欄に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 6 答えは問題の指示に従って書きなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 8 受検番号を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 9 文頭は 1 マス空けないこと。
- 10 句読点および「」などは 1 字に数え 1 マスに書きなさい。
なお、数字および小数点は 2 つで 1 字として 1 マスに書きなさい。

1

江戸幕府は5代将軍徳川綱吉の頃が最盛期といわれる。徳川綱吉（1646～1709）が生きていた17世紀半ばから18世紀初頭は、どのような時代であったか、下の資料1～3を参考に、200～250字で述べよ。

<資料1>

年	できごと
1657	明暦の大火がおこる
1673	三井高利が呉服店を開業
1683	武家諸法度を改定 ※忠孝を重んじるなど儒学を奨励
1685	最初の生類憐みの令を出す

<資料2>

慶長小判（1600年）	金含有率 86.8%	4.76匁
元禄小判（1695年）	57.4%	4.76匁

……金の含有量 / 1匁=約3.75g

<資料3>



2

A～Dの4地点には地震計が設置されている（図1を参照）。

ある日、A地点の真下で地震Ⅰが発生した。その数か月後に、同じくA地点の真下で地震Ⅱが発生した。地震Ⅰと地震Ⅱの震央はA地点と考えてよい。また、両者の地震の規模（マグニチュード）は、ほぼ同じであった。

この2つの地震について以下の問1・問2に答えよ。なお、この一帯の地盤は均一な岩質であるため、P波の速度は地下も含めてほぼ6km/秒で一定であると考えてよい。必要なら次の値を参考にせよ。 $\sqrt{2}=1.41$ $\sqrt{3}=1.73$

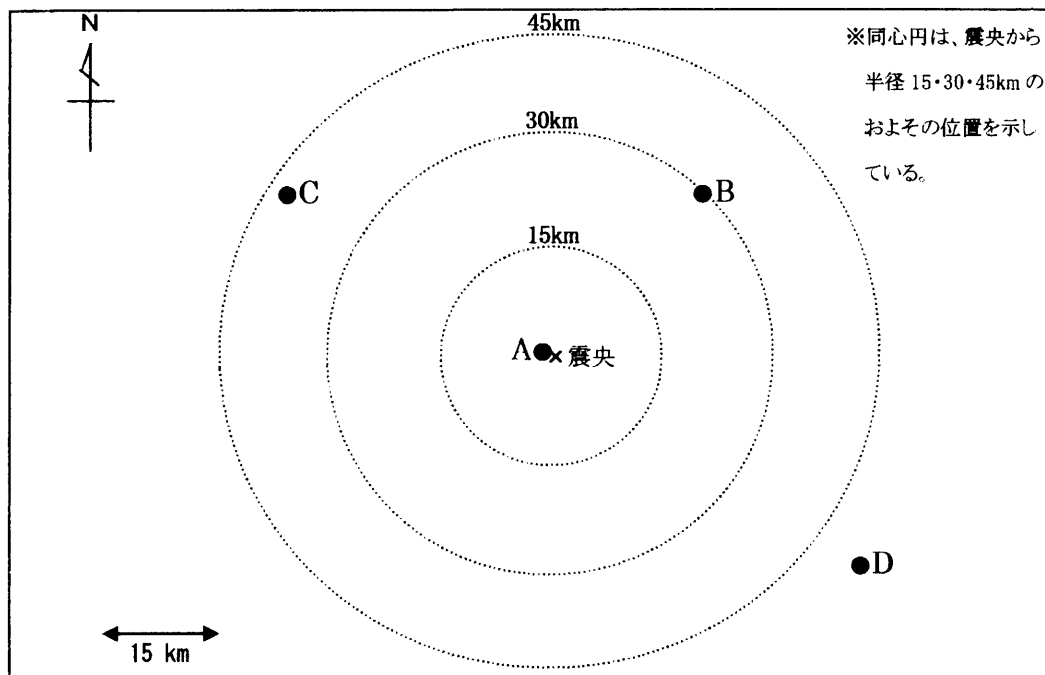


図1 A～D地点付近の地図

問1 下の表1・表2は、地震Ⅰ・地震ⅡのときにA～D地点でP波が揺れ始めた時刻と震央距離をまとめたものである。この両者を比較した場合、A地点の揺れ始めた時刻とその他の地点が揺れ始めた時刻の時間差が異なっているのがわかる。この違いは何が原因であると考えられるか。その理由も含めて説明せよ。字数は問わない。また、説明に図を書いてもよい。

表1 (地震Ⅰ)

地点	揺れ始めた時刻(P波)	震央距離
A	8時20分16秒	0 km
B	8時20分21秒	30 km
C	8時20分23秒	40 km
D	8時20分25秒	52 km

表2 (地震Ⅱ)

地点	揺れ始めた時刻(P波)	震央距離
A	10時40分47秒	0 km
B	10時40分49秒	30 km
C	10時40分50秒	40 km
D	10時40分52秒	52 km

※ 表の数値（秒・km）は、小数点以下を四捨五入してある。

問2 地震Ⅰと地震Ⅱを比較した場合、A地点での主要動の揺れ方はどちらのほうが大きかったと考えられるか。その理由も含めて説明せよ。字数は問わない。

解答用紙

2

問1

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

注) 説明に図が必要な場合は、罫線を無視して書いてよい。

問2

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

受 検 番 号	得 点